

## 指導の手引き 19. 動物 (3)

<b>monkey</b>	最初の mon- にアクセント。	サル
英語らしい音を出すコツ	この o は bus や cup と同じ、口の中央で発音する明るい「ア」なので、「モンキー」ではなく「マンキィ」。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	尾のあるサルを指す。尾のないのは類人猿 (ape) である。	

<b>sheep</b>		ヒツジ
英語らしい音を出すコツ	ee を、口の筋肉をしっかりと緊張させて発音する。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。ただし複数いても two sheep, three sheep と、-s を付けない。	
文化的な情報、応用表現など	sheep はおとなしい動物として知られている。ship 「船」と間違われたいためには、ee を発音するときには口を思い切り緊張させる。「いい湯だね」の「いい」と同じ音。	

<b>horse</b>		ウマ
英語らしい音を出すコツ	h の音をしっかりと出すこと。-or- は長めに発音する。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。複数形は horses (ホースイズ)。	
文化的な情報、応用表現など	水をまく道具は hose であり、o は唇を丸めて「ホウズ」と発音するので、区別に注意。	

<b>rabbit</b>	最初の rab- にアクセント。	ウサギ
英語らしい音を出すコツ	最初の r は舌先が上の歯に触れない。コツとしては r の前に w があるつもりで「(ウ)ラビト」と発音すると英語らしくなる。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	野ウサギは hare という。髪の毛 hair と同じ発音である。	

<b>snake</b>		ヘビ
英語らしい音を出すコツ	s と n を一緒に発音する。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	

<b>frog</b>		カエル
英語らしい音を出すコツ	下唇をかんで f の音を出すと同時に -rog を発音すると英語らしくなる。o は「ア」を言うつもりで口を開き「オ」と発音する。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	国語の教材にも採用されている「がまくんとかえるくん」は原題を Frog and Toad という。Toad はヒキガエル (ガマガエル)。このタイトルは英語と日本語で順序が逆になっている。	

<b>spider</b>	spi の i にアクセント。	クモ
英語らしい音を出すコツ	語尾を「ダー」と長く伸ばしすぎないこと。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	クモの巣を web と呼ぶ。インターネットを web と呼ぶのも、クモの巣のように世界に張り巡らされているからである。	